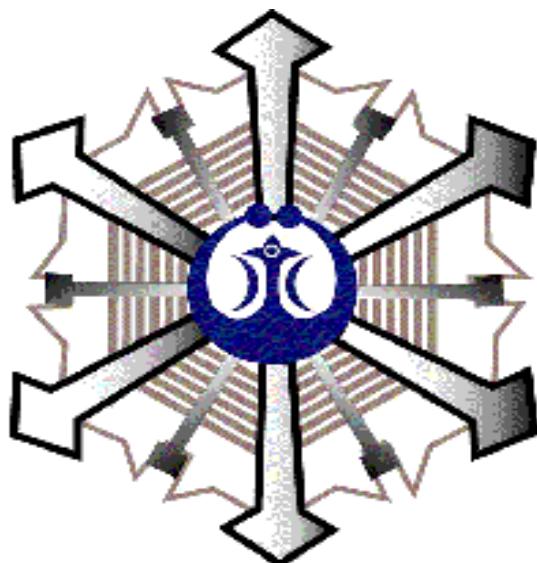


消 防 年 報

令 和 6 年 度 版



泉大津市消防本部
(令和7年刊行)

まえがき

この令和６年度年報は、泉大津市の消防現況及び消防業務に関する諸般の状況を収録し、今後の消防行政の参考に資するとともに、消防事情を紹介するために編集したものです。

令和7年7月

泉大津市消防本部

目 次

泉大津市の概要	1
消防機関の配置	2
泉大津市の位置及び面積	2
消防庁舎の現況	3
消防の沿革	4

総務編

消防組織	10
事務分掌	11
予算	13
職員の配置状況・年齢状況・勤続年数	14
教養・研修	15
職員の免許・資格	17
消防団の年齢状況・主要行事	18
面積・人口・世帯数と消防情勢の推移	19
消防相互応援協定等	20

予防編

概要	22
防火対象物の現況	23
防火管理者選任状況	25
建築確認同意状況	27
消防用設備等の届出・検査	27
危険物施設の現況	28
危険物施設立入検査実施状況	29
危険物施設許認可申請・届出の状況	30
危険物手数料納付状況	30
火薬類施設の現況・立入検査実施状況	31
火薬類の申請等受理・手数料納付状況	31
高圧ガス事業者等の現況・立入検査実施状況・手数料納付状況	32
高圧ガス申請等受理	33
液化石油ガス事業者等の現況・立入検査実施状況	34
液化石油ガス申請等受理・手数料納付状況	34
火災予防条例等による届出状況	35
広報活動概況	36

警 防 編

概 要	3 8
火 災・その他の出場状況	3 9
救助活動・警防パトロール・巡回広報・開発行為消防指導	4 0
署内訓練・自衛消防訓練及び出前講座	4 1
主力機械配置状況	4 2
主力機械出場状況	4 3
消防水利の現況・配水管口径別消火栓設置状況・消火栓整備状況	4 4
通信施設	4 5
緊急通信受信状況	4 5
気象情報等発令回数	4 6
防火図画コンクール応募状況	4 7
幼年消防クラブ結成状況	4 7

火 災 統 計 編

概 要	4 9
5ヶ年の火災概況	5 0
月別火災発生件数	5 1
曜日別火災発生件数	5 1
時間別火災発生件数	5 1

救 急 統 計 編

概 要	5 3
救急活動状況	5 4
救急業務の推移	5 4
月別・曜日別救急出場状況	5 5
時間帯別救急出場状況	5 6
診療科目別搬送状況	5 7
傷病程度別搬送状況	5 7
救急隊員の行なった処置状況	5 8
救命講習会実施状況	5 8

泉大津市の概要

お い た ち

泉大津の歴史は古く、奈良時代には府中におかれた国の役所の外港として栄えていました。交通の要として天皇や国司、歌人、文人らの往来も多く、古くから隨筆や紀行の中にも、「小津の泊」、「小津の松原」などの名勝の地としてしばしば登場しています。土佐日記の中でも、土佐守の任期を終えて帰京する途中当地を通った紀貫之が「行けどなお行きやられぬは妹がうむ小津の浦なる岸の松原」とあり、また更級日記の作者も、大津の浦で暴風雨にあい、舟を丘の上に引き上げて夜をあかした云々と記しています。

やがて明治になり、明治22年4月1日、市町村制の施行により、それまでの17か村がそれぞれ大津村、穴師村、上條村の3か村に統合され、和泉郡の所属となりました。その後大津村は大正4年4月1日に町制を施行して大津村と改称し、昭和6年8月20日に穴師・上條村を合併した後、昭和17年4月1日に市制を施行(府下7番目)、泉大津市と改称して今日に至っています。

現 沈

当市は、全国生産の9割以上を占める毛布を中心に、地域に密着して産地を形成する地場産業とともに発展してきた都市である一方、近年は、交通利便性の高さを活かし、住宅開発が進められており、住宅と地場産業が共存する都市であるとともに、道路や上下水道などの生活環境の整備も進められ、都市基盤の整ったまちとなっています。

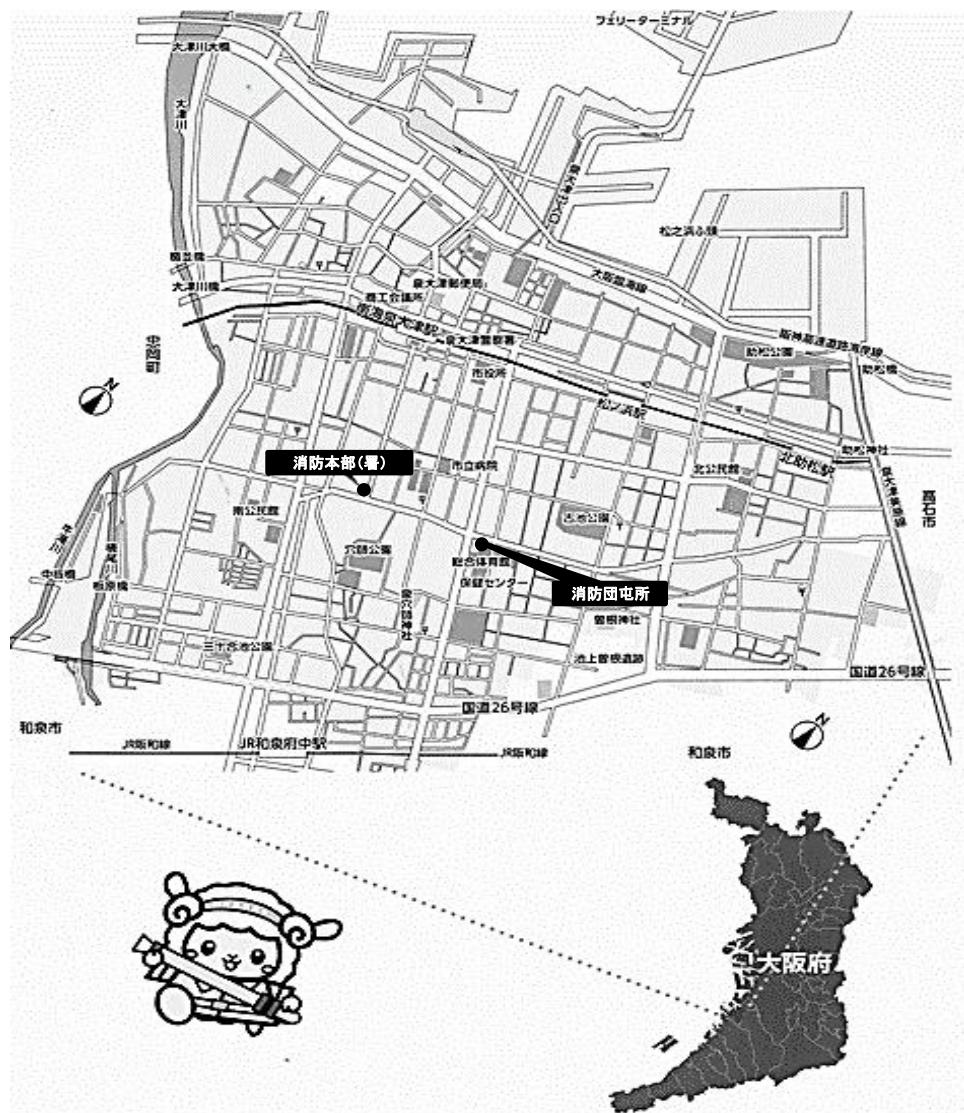
また、臨海部は国際拠点港湾堺泉北港の中枢港湾として整備が進められており、物流関連産業等の新たな産業の集積が進んでいます。

地 勢

大阪府の中央南西部寄りに位置し、北および南東は、高石市と和泉市、南西は大津川を境として泉北郡忠岡町と隣接、東に和泉、金剛、葛城の連峰を眺め、西は大阪湾に面して、はるかに六甲の山なみや明石海峡大橋・淡路島を望むことができます。



消防機関の配置



泉大津市の位置及び面積

<u>位 置</u>	34° 30'	<u>面 積</u>	14.33 平方 km	<u>広 ぼ う</u>	東西 5.4 km
N		(令和7年3月31日現在)		南北	5.5 km
E	135° 24'				

世帯数 35,841世帯 (令和7年3月31日現在) 人口 72,556人 (令和7年3月31日現在)

消防庁舎の現況



名 称	所 在 地	電 話
泉大津市消防本部(署)	泉大津市池浦町一丁目9番9号	0725(21)0119 (代表)

用 途	構 造	階 数	建 築 面 積	延 ペ 面 積
庁舎棟 (車庫棟)	鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造	3階建	1,271.40 m ²	2,265.86 m ²
訓練塔	鉄筋コンクリート造	4階建	59.39 m ²	140.00 m ²
薬剤倉庫等	鉄筋コンクリート造、他	平屋建	141.72 m ²	141.72 m ²
合 計			1,472.51 m ²	2,547.58 m ²

敷地面積 2,550.46 m²



名 称	所 在 地
泉大津市消防団屯所	泉大津市宮町2番52号

構 造	階 数	建 築 面 積	延 ペ 面 積
鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造	2階建	151.88 m ²	220.88 m ²

敷地面積 255.00 m²

消防の沿革(抜粋)

明治 40 年	1 月	大津村消防組規則により消防組設置、組頭以下40名、腕用ポンプ1台配 置
大正 4 年	4 月	町制施行、大津町となる。
	9 月	家屋密集地域に防火用井戸設置
大正 9 年	1 月	手引きガソリンポンプ1台購入、組頭以下70名
昭和 4 年	6 月	上水道敷設に伴い、消火栓を設置
昭和 6 年	9 月	穴師村、上条村の大津町合併を機に消防組を解散、三地区制の消防部 設置 組頭以下60名、手引きガソリンポンプ3台、腕用ポンプ6台配置
昭和 14 年	4 月	警防団令により消防組を警防団に改組
昭和 15 年	5 月	警防団に常備消防部を設置 部長以下5名、消防ポンプ自動車2台配置
昭和 17 年	4 月	市制施行、泉大津市となる。
昭和 20 年	6 月	大阪府警察部消防課直轄消防出張所開設
昭和 21 年	3 月	大阪府告示第130号により大阪府大津消防署に昇格 管轄区域泉大津市外3町1村(和泉町、忠岡町、八坂町、信太村) 消防職員96名、消防ポンプ自動車3台配置
昭和 22 年	5 月	消防団令の制定により警防団を消防団に改組 団長以下100名、消防ポンプ自動車3台配置
昭和 23 年	3 月	消防組織法(昭和22年法律226号)施行 泉大津市消防本部、同消防署発足 消防職員 消防長以下26名、消防ポンプ自動車4台配置
昭和 24 年	12 月	消防本部(署)庁舎竣工(田中町7番地)業務開始
昭和 25 年	1 月	望楼勤務常備制実施、消防職員29名
昭和 26 年	3 月	大阪府知事より優良消防機関として消防団が表彰を受け、竿頭綬を授与
昭和 27 年	12 月	防火水槽9ヶ所設置計画着手
昭和 31 年	3 月	国家消防本部長から優良消防機関として消防本部及び消防団が表彰を 受け、竿頭綬を授与
昭和 33 年	3 月	国家消防本部長から優良消防機関として消防本部及び消防団が表彰を 受け、表彰旗を授与
昭和 35 年	3 月	市内小学校4校に防火水槽設置
昭和 36 年	3 月	消防専用無線局を開設、運用開始
昭和 37 年	3 月	泉大津市火災予防条例制定
昭和 37 年	12 月	消防職員定数45名に改正
昭和 38 年	2 月	和泉市、忠岡町と消防相互応援協定を締結
昭和 39 年	8 月	和泉市、岸和田市、忠岡町と3市1町消防相互応援協定を締結
	10 月	救急業務開始
	12 月	消防職員定数44名に改正
昭和 40 年	3 月	堺市高石市消防組合と消防相互応援協定を締結

昭和 41 年	6 月	泉州水防事務組合水防業務無線固定局設置運用開始
昭和 42 年	2 月	消防職員定数50名に改正
昭和 44 年	6 月	消防職員定数52名に改正
	7 月	堺市高石市消防組合と消防艇応援協定を締結
	11 月	消防本部(署)庁舎竣工(小松町1番70号)業務開始
昭和 45 年	3 月	大阪府と救急医療情報無線局の整備に関する基本協定を締結、医療情報無線局運用開始
昭和 45 年	10 月	大阪市と航空消防応援協定を締結
昭和 46 年	8 月	和泉市と市域外一部地域の救急出場について覚書を締結
	9 月	消防職員定数56名に改正
昭和 47 年	1 月	大阪海上保安監部と船舶火災の消火に関する業務協定を締結
	2 月	消防出張所庁舎竣工(宮町193番地)業務開始
	3 月	水槽付き消防ポンプ自動車1台、消防職員6名を配置 消防職員定数65名に改正 泉大津市消防団条例廃止、消防団解散
昭和 47 年	4 月	消防本部機構改革、2課制(総務・警防)実施
	12 月	消防職員定数70名に改正
昭和 50 年	12 月	広域災害に対応し、府県共通波消防無線局整備
昭和 51 年	7 月	石油コンビナート等災害防止法の施行により、臨海地域(臨海町1丁目・2丁目)が特別防災区域に指定
昭和 53 年	3 月	消防職員定数85名に改正
昭和 53 年	6 月	大阪府南ブロック消防相互応援協定を締結(6市2町1消防組合)
昭和 55 年	2 月	訓練塔(鋼管製組立式)1基設置
昭和 55 年	12 月	消防本部機構改革、3課制(総務・予防・警備)実施
昭和 56 年	2 月	高压ガス製造施設(空気呼吸器充填設備)設置
昭和 56 年	4 月	望楼監視用テレビジョン装置設置
	7 月	泉大津市火災予防協会が消防庁長官から安全功労表彰を受賞
	"	大阪ガス株式会社堺支社とガス漏れ及び爆発事故防止対策に関する申し合せを締結
	"	救急指令装置(C型)設置
昭和 57 年	3 月	消防職員定数83名に改正
昭和 57 年	7 月	泉大津市火災予防協会が内閣総理大臣から国民安全功労表彰を受賞
昭和 58 年	8 月	和泉市消防本部と消防行政管轄区域の境界線上に位置する消防対象物の行政事務処理に関する協定及び覚書を締結
昭和 59 年	3 月	石油コンビナート等大規模危険物火災に備え、署庭に泡原液貯蔵施設(4kℓ)設置 救急需要の増大により救急波専用消防無線局整備
昭和 59 年	4 月	堺市高石市消防組合、忠岡町と消防行政管轄区域の境界線上に位置する消防対象物の行政事務処理に関する協定及び覚書を締結
	8 月	大阪府南ブロック消防相互応援協定を締結(6市3町1消防組合)
昭和 61 年	3 月	消防職員定数84名に改正

昭和 63 年	8月	大阪府南ブロック消防相互応援協定に関する覚書の一部改正
	9月	大阪府下広域消防相互応援協定を締結（大阪市他26市町4消防組合）
	10月	和泉市消防本部と市域外相互応援の範囲について申し合せを締結
平成 3 年	9月	消防職員定数90名に改正
平成 4 年	10月	消防緊急通信指令施設整備、消防署に設置
平成 6 年	3月	岸和田市、忠岡町と大阪府道高速湾岸線に係る応援出場に関する申し合せを締結
平成 6 年	4月	堺市高石市消防組合と大阪府道高速湾岸線に係る浜寺出入口から泉大津南出入口区間の応援出場に関する申し合せを締結
	6月	関西国際空港消防相互応援協定を締結。泉佐野市他7市2町1企業)
	9月	和泉市、忠岡町と関西国際空港消防相互応援協定に基づく(泉北2市1町出場部隊申し合せを締結
平成 7 年	2月	泡原液搬送車購入、消防署に配置
平成 7 年	10月	高規格救急自動車購入、消防署に配置
平成 8 年	6月	消防署に福祉ファクシミリ装置設置
平成 9 年	12月	はしご付消防ポンプ自動車(40m級)購入、消防署に配置
平成 9 年	3月	飲料水兼用耐震性貯水槽(100m ³)整備
平成 9 年	10月	泉大津高石遊技組合から査察広報車1台寄贈、消防本部に配置
	11月	大阪府下自動車電話・携帯電話119番通報に関する申し合せを締結
	12月	分散受信方式による自動車電話・携帯電話からの119番通報受信装置設置
平成 10 年	2月	水槽付消防ポンプ自動車購入、消防署に配置
平成 10 年	11月	自治体消防発足50周年記念式典
平成 11 年	2月	消防ポンプ付救助工作車購入、消防署に配置
	3月	泉大津市火災予防協会から広報宣伝車1台寄贈、消防本部に配置
	"	広域災害に対応し、大阪府防災行政無線局整備
	"	飲料水兼用耐震性貯水槽(100m ³)2号基整備
平成 12 年	3月	社団法人大阪府モーターボート競走会から、救急自動車(2B)1台寄贈出張所に配置
平成 13 年	2月	高規格救急自動車購入、消防署に配置
平成 13 年	10月	消防本部機構改革、2課制(総務・警防)実施
平成 14 年	3月	水槽付消防ポンプ自動車購入、出張所に配置
平成 15 年	3月	消防用超短波無線電話装置、消防署に配置
平成 15 年	12月	小型動力ポンプ購入、消防署に配置
平成 16 年	2月	消防用超短波無線電話装置、消防署に配置
平成 17 年	2月	社団法人日本損害保険協会から高規格救急自動車1台寄贈、出張所に配置
	3月	消防ポンプ自動車購入、出張所に配置
平成 17 年	4月	緊急消防援助隊(消防隊1隊)登録
	7月	消防団再結成(消防団員定数60名)
	12月	小型動力ポンプ購入、消防署に配置
平成 18 年	3月	小型動力ポンプ購入、消防団に配置

平成 18 年	9 月	救助用ゴムボート購入、消防署に配置
平成 19 年	1 月	化学消防ポンプ自動車(大型)1台購入、消防署に配置
	2 月	可搬式消火装置1台購入、消防署に配置
平成 19 年	5 月	小型動力ポンプ購入、消防団に配置
	12 月	エアーテント一式及び油圧救助器具購入、消防署に配置
平成 20 年	2 月	災害対応車1台購入、消防署に配置
平成 20 年	4 月	消防団1分団制から3分団制に改編
平成 21 年	3 月	BC災害用資器材一式購入、消防署に配置
平成 21 年	7 月	小型動力ポンプ積載車購入、消防団に配置
	12 月	消防ポンプ自動車購入、消防署に配置
平成 22 年	1 月	化学消防ポンプ自動車購入、消防署に配置 高規格救急自動車購入、消防署に配置
平成 22 年	4 月	消防団員定数72名に改正
平成 23 年	2 月	はしご付消防ポンプ自動車(15m級)購入、消防署に配置
平成 23 年	7 月	公用車購入、消防本部に配置
平成 24 年	2 月	査察車購入、消防本部に配置
平成 24 年	3 月	高規格救急自動車購入、消防署に配置
平成 24 年	4 月	消防本部機構改革 3課制(総務・予防・警防)実施 消防団員定数80名に改正
平成 25 年	3 月	消防資材搬送車購入、消防署に配置 災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車購入、消防署に配置 消防出張所耐震補強改修工事実施
平成 26 年	3 月	救助工作車II型購入、消防署に配置
平成 26 年	12 月	消防救急無線デジタル化整備 広報車購入、消防本部に配置
平成 27 年	3 月	消防庁長官より優良消防機関として消防本部及び消防団が表彰を受け、竿頭綬を授与
平成 27 年	8 月	消防庁舎建築工事に伴う基本設計業務実施
	12 月	消防フェスティ開催
平成 28 年	1 月	消防庁舎建築工事に伴う実施設計業務実施
平成 28 年	8 月	平和才一ト株式会社から高規格救急自動車1台寄贈、消防署に配置
	11 月	消防庁舎建築工事着手
	12 月	泉州水防事務組合 解散
平成 29 年	12 月	消防本部(署)庁舎竣工(池浦町一丁目9番9号) (12月22日付)
平成 30 年	3 月	消防庁舎完成披露式典 (3月10日) 通信指令システム移設工事完了 新庁舎にて運用開始(3月26日付)
平成 30 年	4 月	消防本部(署)庁舎 業務開始
平成 30 年	10 月	緊急消防援助隊(救急小隊1隊)登録
平成 31 年	2 月	消防団屯所改修工事着手
	"	NBC災害用資器材一式購入、消防署に配置
	"	消防団屯所改修工事完了
	3 月	消防庁長官より消防団が消防団等地域活動表彰を受賞 大阪府知事より優良消防機関として消防団が表彰を受け、表彰旗を授与
令和 元 年	7 月	消防団屯所開所
令和 2 年	1 月	高規格救急自動車購入、消防署に配置

令和 2 年	8 月	NET119緊急通報システム 運用開始 多言語電話通訳サービス 運用開始
令和 3 年	2 月	指揮車購入、消防署に配置
	3 月	通信指令システム部分改修工事完了(3月8日付)
令和 3 年	6 月	水槽付消防ポンプ自動車(CD-Ⅰ型)購入、消防署に配置
令和 4 年	6 月	市政80周年記念 危険物安全大会 開催
令和 5 年	3 月	総務省消防庁消防団無償貸付事業により救助用資機材搭載型小型動力ポンプ積載車貸与、消防団屯所に配置
令和 5 年	7 月	堺市及び泉大津市におけるはしご付消防自動車の共同運用に係る連携協約締結
令和 6 年	1 月	堺市及び泉大津市におけるはしご付き消防自動車の共同運用に係る協定を締結
令和 6 年	4 月	堺市及び泉大津市におけるはしご付消防自動車の共同運用開始
令和 7 年	3 月	消防ポンプ自動車(CD-Ⅰ型)購入、消防署に配置 高規格救急自動車購入、消防署に配置